

# あおい通信 第67号

## 世評・時評

今年も一ヶ月を  
 残すだけとなって  
 しまいました。  
 過ぎ行く時間  
 の速さは誰も止め  
 られません、やむ  
 を得ぬときの流れは現実  
 でありませぬ。今年を少  
 し振り返ってみると様々な  
 事がありました。  
 消えた高齢者、幼児虐  
 待、自殺者の低年齢化：  
 ベスト10の羅列はマスコ  
 ミ各社にお任せにして、  
 現在自分が気になってい  
 る事柄で日本の領土問題  
 について記してみました。  
 「人恋ふる歌」で与謝野鉄  
 幹は、詩っています。  
 （友のなさをたづぬれ  
 ば／義のあるところ火

をも踏む……）  
 友人とは何かといえ、  
 信頼を重んじ、そのため  
 には火中に身を投じるこ  
 ともいとわれない、そうい  
 う間柄のことだと。  
 鉄幹流の定義にかな  
 う「友」米国との間で結ば  
 れた同盟関係によって今  
 の日本があることに異を  
 唱える人はいないでしょ  
 う。「なかに米国だけが  
 友人じゃないさ」とばか  
 りに日米関係を軽んじ、  
 中国との親密ぶりを誇示  
 したのが「鳩山首相」小  
 沢幹事長「体制下の民主  
 党政権でした。  
 その結果、何が起きた  
 でしょうか……わが固有  
 の領土である尖閣諸島を



写真・文 七海邦夫

↑ ニコライ堂。日本の、しかも神田の景色とは思えませんね。

## 東京江戸散歩

### その式拾六 神田・お茶の水 ②

家康が江戸に入った  
 当時、駿河台と湯島台地  
 は一続きの大地で神田山  
 と呼ばれていた。これを  
 切り崩して日比谷付近の  
 入り江を埋め立て、日本  
 橋以南の銀座、新橋、築  
 地などの下町を築いた。  
 ついでに言えば、神田山  
 は今の錦町辺りまであ  
 り、土を削って平らにし  
 た跡地は鍛冶町、錦町、  
 白壁町、紺屋町、大工町  
 などの職人町になった。  
 削り落とされた御茶の水当  
 りの高台が駿河台とい  
 わけである。更にその後、  
 仙台伊達藩の工事により

江戸城の北の固めとして  
 駿河台と湯島台地を切り  
 離し、外堀の神田川の流  
 れを通じたのが今のお茶  
 の水付近の姿である。  
 広重の「名所江戸百景」  
 にあるような幽邃な自然  
 は失われたが、溪谷美の  
 神田川と秋葉原方面の特  
 に夕暮れ時の眺めが良い。  
 神田川を跨ぐ聖橋の名は、  
 ニコライの聖堂と湯島聖  
 堂とを結ぶことから来て  
 いる。



荘厳なる  
 キリスト像



シンメトリックな  
 湯島聖堂

音も神田名物の一つにな  
 っている。堂塔の名は創建  
 当時の大司教ニコライか  
 らきているが、正式には「日  
 本ハリスト正公会復活大  
 聖堂」である。鐘は以前は  
 百三回鳴らされたが、現在  
 は日曜の午前十時と午後  
 0時三十分のみ。（火曜  
 から金曜の十三時から十  
 五時に拝観できる）。

聖橋に戻って橋の南端、  
 日立製作所の角に太田南  
 畝終焉の地がある。対岸の  
 森は湯島聖堂である。初め  
 上野忍丘にあった林羅山  
 の儒学塾と孔子廟を、元禄  
 三年（一六九〇）五台将軍  
 綱吉がお茶の水に移した  
 ものである。学問好きの綱  
 吉は自ら教授気取りで大  
 名達に講義している。後に  
 老中松平定信によって幕  
 府の官立学校、昌平坂学問  
 所となり、儒学（朱子学）  
 教育の総本山として主に  
 藩臣の子弟の教育が行わ  
 れた。今は神田川沿いの築  
 地堀の中に大成殿や大き  
 な孔子像があり、思いのほ

## 短歌

鳥越 直子  
 空近く  
 ふくらみてあり雲の  
 こぼれ雲つ日を  
 待つ秋心と日  
 くれぬいに  
 染むる樹々の公園は  
 三三三三三  
 人の行か交り  
 濃濃え  
 葵の城に六月ふり  
 すべてをゆだね  
 べのたやか  
 相田 美代子  
 寒風に  
 元気に遊ぶ曾孫に  
 手編みのマフラー  
 贈る楽しみ  
 虫の音に  
 つい誘われて酔いしれて  
 語り明かした  
 母と娘（い）の旅

見ればいい！北方領土  
 を見ればいい！  
 「義のあるところ火を  
 も踏む」友人との間に吹  
 くすきま風を中国やロシ  
 アにつけ込まれ、いいよ  
 うにされています。  
 （友を選ばば書を読み  
 て／六分の侠気四分の  
 熱……）軍事力と経済力  
 を頼んで無理を通そうと  
 する「六分の凶器四分の  
 欲」の国は真の友足り得  
 ないと思います。  
 民主政権交代から1  
 年余、領土・領海を危険  
 にさらして友人の選び方  
 をようやく学習すると  
 は、払った授業料が高す  
 ぎました。  
 （ヨッチャン）

## あおい味増

欄外に好きな句ありて日記買ふ 泉 直子  
 友逝きの名残りのコスモス風に揺れ 橋本 廣子  
 二人連れマフラー一つに纏れ行く 山村 匡子

## ◆編集委員会より

「あおい通信」は、皆  
 様からの原稿を募集し  
 ています。担当飯島迄お  
 申し出ください。

昌平坂と命名したのは、  
 孔子が生まれたのが中国  
 山東省昌平だったことに  
 よる。明治になると一帯に  
 東京高等師範学校（筑波大  
 学）、東京女子高等師範学  
 校（お茶の水女子大学）な  
 どが創設された。  
 （続く）

## 旅順を訪ねて ②

渡辺 義正

東鶏冠山保塁―旅順の攻防で有名になったのは高地だが、最も激しい攻防が展開されたのはこの保塁である。典型的な攻防を兼備した保塁。ロシア軍最大で最強の保塁であった。今日でも保塁の壁には生々しい弾痕の跡があり、当時の戦闘の激しさが想像できる。現在は公園のように整備され公開されている。敷地内には日露戦争陳列館があり、戦争の全貌や当時の武器、弾薬などが展示されている。兵士の待機所、爆破された壁、トンネル、そして、司令官ゴンドラチェンコの爆破死

地点など紹介し、陳列館では、日本語を話せるガイドが待機している。旅順市内―中国海軍の主要な軍事基地になっていたため、外国人の立ち入りは固く禁止されていた。昨年より解放された市内へ入ることが出来るようになった。市内には日本統治下の建造物が多く残り、現役として活用されている。旅順港はソ連より返還され青島ともに、北中国の重要な海軍の拠点である。

旅順駅舎―旧市内の一番西の角に旅順のシンボルの存在の駅舎である。ロシアが租借したとき建てられたロシア教会風の塔がある小さい建物で、屋根は緑色で美しい。今では淋しい終着駅

であり、列車の運行も朝は大連へ、夕方には大連から旅順への運行のみである。ホームも一つだけ。駅前には、海軍基地のゲートになっている。



↑ 緑と黄色の鮮やかな駅舎

旅順駅から新市街へ入るときは、日本統治下では日本橋「現勝利橋」を渡る。振り返ると後方の白玉山上に聳える白玉山塔が見える。橋を渡ると、ソ連軍が占領し、撤退する際に建設した正五角形の柱状の塔がある。

旅順博物館―質の高い展示品で定評がある博物館である。ソ連軍が撤退前に建て中ソ友誼塔の前に立っている。日本統治下には関東博物館できれいな庭といくつかの建物がある。収集品で特に質の高いのは、西本願寺の門主となつた大谷光瑞(一八七六一一九四八)が三回に亘り中央アジアやインドに派遣した調査隊が収集した「大谷コレクション」の一部である。

本館入口にはモンゴルが朝鮮に作らせ、大連の東本願寺で使用されていた釣鐘が置かれている。また大谷探検隊がシルクロードのトルファンで発掘したミイラなども陳列されている。一階には八一十二世

紀のインドビハール王朝の仏像が並んでいる。博物館の隣には、かつての関東軍憲兵隊の建物も建ち、現在は、大連結婚殿堂大酒店となっている。

旅順ヤマトホテルで「東洋のマタハリ」或いは「男装の麗人」として有名な川島芳子の結婚式が行われた。新郎は蒙古族の將軍の次男カンジユル。新婦の実父は清朝の皇族の一人で辛亥革命後に旅順に逃れて来た肅親王。川島浪速



↑ 旅順ヤマトホテル

の養女となって川島芳子を名乗っていた。旅順ヤマトホテルの反対の位置には大きい真っ白な外壁の旅順師範学堂が残っているが、現在は使われていない。旅順港の海岸沿いに友誼路が直線的に伸び、日本統治時代からの建物が残っている。勝利塔の西側には関東庁舎、独特な屋根に特徴がある。現在は軍の施設になっている。さらに西に進むと開校が一番遅かった旧旅順高校である。真っ白い建物で現在は海軍司令部になっている。

新市街から反転して旧市街へ。旅順駅の東側には、小高い丘がある。山頂には、日本が立てた白玉山塔が聳えている。統治下では「表忠塔」と呼ばれていた。頂上からは旅順港が目前に広がり、狭い入口は守るには易く、攻めるのは難しい地形だと一目でわかる。

旧市街の北には、円筒形の小さい塔のある建物がある。屋根はエンジシ色。統治下の旅順赤十字病院。現在は紅十字病院であり、有効に活用されている。統治下の裁判所であった旅順日本開東法院は、伊藤博文を暗殺した安重根を裁いたところである。安重根を絞首刑に執行した刑務所も現在は公開されている。

頂には、日本が立てた白玉山塔が聳えている。統治下では「表忠塔」と呼ばれていた。頂上からは旅順港が目前に広がり、狭い入口は守るには易く、攻めるのは難しい地形だと一目でわかる。

で、私も「ハイ、南の島に行ってきたよ」と冗談が飛び出し、一瞬で心が明るく楽しくなり病も吹っ飛びました。

私のような未熟者が今日まで努めさせて頂く事が出来たのも、皆様の暖かいお気持ちと大きな翼に包み込まれ、深い海のような広い心で支えて頂けたからだ。感謝で一杯です。皆様には頂くばかりで何もお返しする事が出来ませんが、感謝の気持ちを込めて、「本当に有難うございました」と心から御礼を申し上げます。

## SONNEN-UP

井関 義久

敗戦の前日まで、輸送船を造るドックに通っていました。三五一工場という陸軍の施設でした。中学三年生。毎日学校へは行かず、鉄パイプに砂利を詰めコークスで真っ赤に染めたのを、二、三人で力を合わせて曲げるのです。比較的細めのパイプをO字形に曲げて、ポイラーに取り付けました。船の心臓部に当たる場所です。

長崎の造船所から徴用されて来た班長が、丁寧に教えてくれました。木銃をかつぎ、ゲートを巻き、歩調をとって宮門を通る。中国人の工員も同様でした。憲兵に殴られっぱなしの人がいました。一九四五年、大連の海水浴場に隣接する軍事基地でした。昼は米の飯、昼寝の時間まであって、思えば結構な毎日でした。パイプ曲げの銅工班の外に、旋盤・鑄造といった班があって、それぞれ中学生が活躍しました。中国人工員や日本から来た徴用工の人々の目にはどのような映っていたのか。

休憩時間に、トロロッコのレールを研きながら、暴動に備えて槍を作るんだと班長が言いました。進水式の日、水圧に耐えきれず船体が真っ二つに割れました。鉄筋コンクリートの巨大な塊は、まさにタヌキの泥船。グライダートレーンで、機体を真っ二つに折ったことを思い出しました。もう一隻は無事就航。マストの天辺に上り、手旗信号で水先案内を依頼するのが私の仕事でした。高所から見下ろす船は美しく、大連港の棧橋に静かに横たわりました。

明日は学校に集まるように言われ、ラジオを聴いて敗戦を知りました。コンクリート船がその後どうなったかは知りません。校長は校務委員という名の集団制になり、教育内容も変わりました。残留者子弟のため、代用教員に採用され研修を受けることになりました。やがて引き上げ業務が始まり、ソ連軍将校の配下で収容所勤務。中学生・教員・団体職員という何とも不思議な身分で引揚船を見送る毎日でした。

此の度、私は縁あって千葉の地に移り住むことになりました。千葉の地は余りにも遠く、余儀なく葉を離れることになりました。六年前に亘り皆様と様々な思い出がある葉を去ることには、とても淋しく切ない気持ちで一杯です。

## お世話になりました

川田 富美子

私事ではございますが、平成十八年の春に子宮頸癌の手術を受けた際に、葉を三週間休んで療養させて頂いたことが有りました。術後、早々の仕事復帰を考慮しておりましたのに、出血が酷く、家から20、30m歩いただけで息切れし、具合が悪くフラフラになって

身体が宙に浮いたような感じでした。しかし、私も葉で懸命にリハビリに励んでいらっしやる皆様に負けじと、毎日少しずつ歩数を増やしリハビリを続け、駅まで歩けるようになった時は大きな喜びを覚えました。何しろ電車に乗らなくては葉に行かれないので、昼間の空いた時間に電車に乗る練習をし、横にならず起きていられるような体力を取り戻すよう頑張りました。そして久しぶりに葉に出動した時、「アッ、いた！」とか「辞めたのか」と思った「なび」皆様にお声を掛けて頂き、とても幸せに思いました。取分けビックリしたのは新婚旅行に行っていたという噂

最後にになりましたが、皆様の御健康と御長寿をお祈りし、お別れの御挨拶とさせていただきます。